ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	No.1（2号町道橋-左岸）	調査位置				北　緯	36 ° 24 ’ 41.0000 ”
発注機関	栃木県宇都宮土木事務所 河川砂防部			調査期間	2008-01-18 ～ 2008-01-21	東　経	139 ° 54 ’ 00.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	56.13 m	角度	上180° 下0° 90° 0.00 °	方向	北0° 西270° 東90° 南180° 0.00 °	地盤勾配	鉛直90° 水平0° 10.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下具	
総掘進長	18.20 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
1	54.63	1.50	1.50		盛土(礫混じりシルト)(BS)	暗褐		軟らかい	含水・粘性ともに中位である 1.0mまで礫が多く混じる		
2	53.98	0.65	2.15		有機質粘土(CHO)	暗褐		軟らかい	含水量多く粘性やや大きい 1.9～2.15m間粘土混じり細砂		
	53.33	0.65	2.80		礫混じり粗砂(CS-G)	暗褐	非常に密な		粒径不均一な粗砂で固結している 含水量が少ない		01/18 2.70
3					砂礫(GS)	暗灰～暗褐～暗褐灰			φ5～40mmの円・亜円礫主体 礫間は粒径不均一な砂で充填されている 最大礫径φ200mm(コア長L=70mmの3倍程度として推定)程度である 4.0～5.0m間砂分が多く部分的に砂を挟む 6.0m付近でややゆるい 礫種は安山岩，流紋岩など火成岩が多い		
4											
5											
6											
7							中ぐらい				
8											
9											
10	45.53	7.80	10.60								
11					粘土(CH)	淡褐		中位	含水・粘性ともに中位である 6.0m付近より細砂が混じる		
12	43.88	1.65	12.25								
	43.73	0.15	12.40		礫混じり細砂(FS-G)	褐	中ぐらい		礫間は粒径不均一な砂で φ5～10mmの礫混入		01/19
13									φ5～40mmの円・亜円礫主体 φ100～200mm(コア長L=30～70mm)の玉石が点在 礫間は粒径不均一な砂で充填され少量の粘土分が混じる		
14					粘土混じり砂礫(GS-C)	灰褐	非常にに密な		13.3～15.0m間は細砂分が多い 14.8～15.0m間は礫が少ない 全体に固結の程度が高く非常に締まっている		
15											
16											

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0|10	10|20	20|30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1		2/30	2
1.45	15	15			
2.15	20	18	12	50/28	>50
2.43			8		
3.15	24	26		50/18	>50
3.33		8			
4.15	8	7	8	23/30	23
4.45					
5.15	41	9		50/12	>50
5.27		2			
6.15	8	9	11	28/30	28
6.45					
7.15	23	24	3	50/21	>50
7.36			1		
8.15	32	18		50/16	>50
8.31		6			
9.15	29	21		50/18	>50
9.33		8			
10.15	50			50/10	>50
10.25					
11.15	2	2	3	7/30	7
11.45					
12.15	6	8	9	23/30	23
12.45					
13.15	44	6		50/11	>50
13.26		1			
14.15	50			50/4	>50
14.19	4				
15.15	24	26		50/19	>50
15.34		9			
16.15	50			50/6	>50
16.21	6				

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

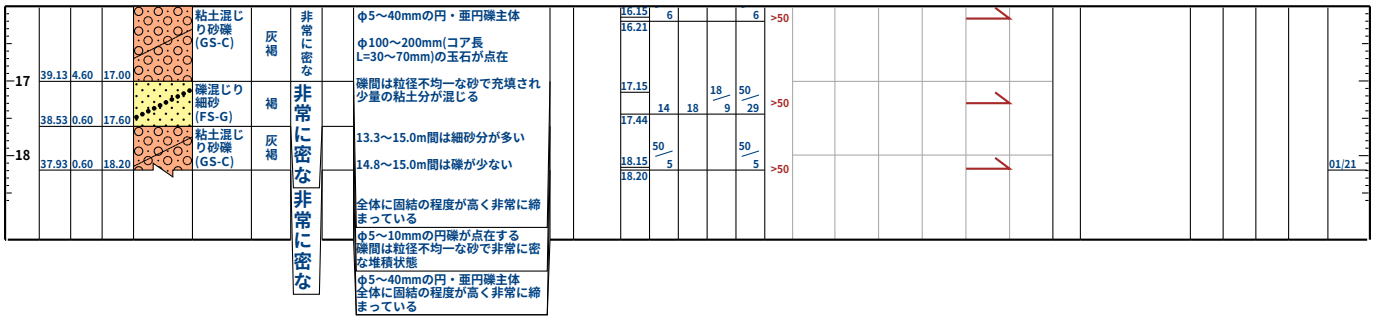
深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日

01/18

01/19


17
18
39.13
4.60
17.00
38.53
0.60
17.60
37.93
0.60
18.20
粘土混じり砂礫 (GS-C)
礫混じり細砂 (FS-G)
粘土混じり砂礫 (GS-C)
灰褐
褐
灰褐
非常に密な
非常に密な
φ5～40mmの円・亜円礫主体
φ100～200mm(コア長 L=30～70mm)の玉石が点在
礫間は粒径不均一な砂で充填され少量の粘土分が混じる
13.3～15.0m間は細砂分が多い
14.8～15.0m間は礫が少ない
全体に固結の程度が高く非常に締まっている
φ5～10mmの円礫が点在する
礫間は粒径不均一な砂で非常に密な堆積状態
φ5～40mmの円・亜円礫主体
全体に固結の程度が高く非常に締まっている
16.15
16.21
17.15
17.44
18.15
18.20
6
14
18
50/5
18/9
50/29
50/5
6
>50
>50
>50
01/21